

# 人権コラム 心、豊かに

## ◆ 未来を紡ぐために

「ギャップ」。二つの事象や状態、期待と現実などの間に存在する「差異」を指す言葉。例えば、男女間で家事や育児などに対する意識や負担（責任）に差異がある“家事ギャップ”。また育児に関して、親世代や祖父母世代との考え方の差異を表す“子育て世代間ギャップ”などがあります。

“家事ギャップ”は、総務省が実施した「社会生活基本調査（令和3年）」で顕著に示されています。6歳未満の子を持つ世帯の1日の家事（育児・介護・看護なども含む）に費やす平均時間は、夫の1時間54分に対し、妻は7時間28分となっており、平成28年と比べると夫婦間の差は縮まっているものの、まだまだ相当の開きがあるようです。この差をできるだけ縮め、どちらか一方に負担が偏ることのないよう、家事や育児、さらには仕事を含む暮らしの全般については、夫婦で対話し、知識などのギャップを埋める努力が大切です。その際には、内閣府が作成した「夫婦が本音で話せる魔法のシート／〇〇家作戦会議」を参考にするのもひとつの方法です。

共働き世帯の増加によって、祖父母が育児に参加する場面が多くなったことで、注目されるようになった“子育て世代間ギャップ”は、そのギャップに対する戸惑いから、トラブルに発展してしまうケースもあるようです。世代間で育児に関する考え方に差異があるのは当然なことかもしれませんが、昔と今の子育ての特徴をお互いに認知することは、ギャップの解消に役立つはずで、祖父母世代が親世代の子育てを応援し、親世代は祖父母世代から大きな協力を得るといった相互作用により、子育てに「ゆとり」が生まれるという期待が持てます。

時代とともに生活環境や物ごとに対する価値観も激しく変わっていきます。家庭（家族間）でコミュニケーションを図り、お互いに尊重し価値観を共有することが、次世代を担う子どもたちの個性を伸ばし、穏やかな生活を送るための導きになるのではないのでしょうか。